

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
104-222	小学校	生活科	生活	第1学年, 2学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
26信教	生活125 生活126	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ		

1. 編修の基本方針

編修のコンセプトを「子どもと身近な自然や社会、人々をつなぐ、ぬくもりのある教科書」とし、学習指導要領生活科の目標及び内容に基づき、多数の小学校の長年にわたる研究や実践の裏付けをもとに、学習内容を精選・集約して構成した。

- (1) 全編を貫く指導理念を「人間愛」の育成において、家族や仲間、地域の人々との響き合い、支え合いの場面を大切にするとともに、身近な幼児や高齢者、障がい者などと触れ合い、自分の在り方に気付くことができるようにした編修。
- (2) 教室から校内や校外に出での活動を大切に、子どもが具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会や自然とのかかわり及び自分自身について振り返り、気付きの質を深めながら、よき生活者として求められる知識・技能や学ぶ意欲、態度などを培い、自立への基礎が着実に養えるよう、学習内容の展開と示し方に配慮した編修。
- (3) 教材は、できるだけ子どもの身近で、地域の豊かな自然環境や日常的な事象を取り上げ、具体的な活動を通して培われる感動体験を大切に編修。
- (4) 子どもは対象に思いをかけ、思いをこめるほどに、思いがけなさに出会い、その出会いによって対象への思いをいっそう深め、広げ、時に新たにしていこうという特性を踏まえ、「専心とその連続」が中核となっていく活動を基本にすえた単元展開となるようにした編修。

2. 対照表

上巻

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 うれしいな いちねんせい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園で育ってきた自分自身に自信をもち、新たな学校という環境に意欲的にかかわっていかうとする姿勢を示すとともに規則正しい一日の生活の流れや友達・先生・地域の人々とのかかわりを表した。(第1号) ・ 学校生活や行き帰りの道での安全に留意するため、標識や表示・安全を守ってくれる人や場所を示した。(第1号) ・ 友達と共に遊んだり学んだりする学校生活への誘いを単元展開で表せるよう工夫した。(第3号) ・ 感染症や交通安全についての注意喚起も行った。(第1号) 	4~13 頁 5, 12, 13 頁, 14~17 頁 4~25 頁 9 頁
2 はると なかよし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四季を通して繰り返し「いつもの ばしょ」へ足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子などに、多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるように表した。(第1・4・5号) 	26~33 頁
3 たんごの せっく	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のたんごのせっくにかかわる行事にこめられた人々の願いや思いを、家庭生活の中から気付けるように配慮した。(第5号) 	34~35 頁
4 わたしの あさがお	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一粒の種との出会いから「わたしとあさがお」の関係を築いていく過程での気持ちの交流を大事にするため、その中で出会う思いがけなさを大切に、学習カードや吹き出しとして表した。(第1・4号) 	36~43 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
5 いきものと いっしょ①	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し長期的にかかわる中で、対象に寄り添い、生活を共にし、くらしをつくっていく学びを大事にすることで、生命を尊び、大切にすることが養われると考え、飼育学習を位置付けた。 (第1・4号) ・生き物に触る前後で衛生面の注意喚起も行った。(第1号) 	44～51 頁 49 頁
6 たなばた	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のたなばたにかかわる行事にこめられた人々の願いや思いを学び、それをもとに自分たちのたなばた会を計画し実現していくことを大事に表した。(第5号) 	52～55 頁
7 まぶしい なつ	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を通して繰り返し「いつもの ばしょ」へ足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよここびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるように表した。(第1・4・5号) ・熱中症や夏の安全について注意喚起も行った。(第1号) 	56～67 頁 57, 64 頁
8 ひとつぶの たねから	<ul style="list-style-type: none"> ・一粒の種から生まれたものを命として残したい、来年の一年生にも引き継ぎたいという活動を通して「わたしとあさがお」の関係を振り返ることができるような構成とした。(第1・4号) 	68～73 頁
9 いきものと いっしょ②	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し長期的にかかわる中で、対象に寄り添い、生活を共にし、くらしをつくっていく学びを大事にすることで、生命を尊び、大切にすることが養われると考え、飼育学習を位置付けた。 (第1・4号) 	74～79 頁
10 おつきみ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のおつきみにかかわる行事にこめられた人々の願いや思いに触れながら、調べ活動をもとに自分たちのおつきみ会を計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) ・行事に関連する季節の植物として、図鑑的な要素も入れた。(第1号) 	80～83 頁 81 頁
11 あきが いっぱい	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を通して繰り返し「いつもの ばしょ」へ足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよここびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるように表した。(第1・4・5号) 	84～97 頁
12 わたしと かぞく	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中での役割や家族が互いに支え合っていることに気付けるよう、また、学校でそれを話題にして気付きを深めていけるよう、学校での話し合いや気付きを家庭の場で確かめたり、自ら取り組んだりすることで、家族と学校とのかかわりも示そうとした。(第3号) 	98～101 頁
13 ふゆも きらきら	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を通して繰り返し「いつもの ばしょ」へ足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよここびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるように表した。(第1・4・5号) ・行事に関連する季節の植物として、図鑑的な要素も入れた。(第1号) ・冬の安全について注意喚起も行った。(第1号) 	102～113 頁 112 頁 113 頁
14 せつぶん	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のせつぶんにかかわる行事にこめられた人々の願いを学び、それをもとに自分たちのせつぶん会を計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) 	114～116 頁
15 てづくり おもちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心を刺激し、興味関心から思い思いのおもちゃづくりを試行錯誤し、動くおもちゃの不思議さやおもしろさを実感できるように構成した。(第2号) 	117～119 頁
16 ひなまつり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のひなまつりにかかわる行事にこめられた人々の願いを学び、それをもとに自分たちのひなまつりを計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) 	120～121 頁
17 もう すぐ 二ねんせい	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の振り返りをする活動を通して、学習上の自立、生活上の自立、精神的自立への基礎が養えるように配慮した。(第1号) 	122～128 頁

下巻

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 二年目の 春	<ul style="list-style-type: none"> ・進級のよろこびを感じながら再び春を迎えた子どもたちが、四季を通して繰り返し「いつもの ばしょ」へ足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見をすることで自らの成長に気付き、自分自身への愛着が深められるように表した。(第1・4号) 	4～13 頁
2 わたしたちが すむ 町	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で働いたり生活したりする人々とのかかわりを通して自分たちとのかかわりを理解し、自分が住む町に親しみや愛着がもてるようにした。(第2・5号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して人との適切なかかわり方、態度が身に付くように配慮した。(第3号) ・公共施設や地域で行われている行事を調べることを通して、自分たちの住んでいる町に親しみや愛着をもてるように配慮した。(第1・5号) 	14～24 頁 18～24 頁 25～27 頁
3 いきものと いっしょ③	<ul style="list-style-type: none"> ・育ててきた生き物が「お母さんになる」という生命誕生の場面に立ち会い、生命を尊び、大切にすることを養うとともに、自らの成長を顧みられるように構成した。(第1・4号) 	28～31 頁
4 いっぱい みのって	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物单元との関連で立ち上がり、さらに身近で教材性の高い大豆を対象として「わたしとあさがお」の関係から「わたしたちの дайず」となるよう継続性のある单元として設定した。(第1・4号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して人との適切なかかわり方、態度が身に付くように配慮した。(第3号) 	32～45 頁 32 頁, 35 頁, 43 頁
5 かがやく 夏	<ul style="list-style-type: none"> ・夏ならではの川遊びを楽しみながら、そこに棲む生き物に目を向け、育つ場所や環境に関心をもてるように配慮した。(第4号) 	46～51 頁
6 すすめ すいすい号	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで生活を共にしてきた友と乗れる船を創り出していく楽しさや水の上に浮かべた浮遊感覚とよろこびを表した。また、船の材料集めや製作・後片付けの過程で、学校、地域、級友との心の交流を通して人との適切なかかわり方、身の回りの環境を大切にすることが身に付くように配慮した。(第1・3号) 	52～57 頁
7 いっぱい みのったね	<ul style="list-style-type: none"> ・生育条件を調べて世話を続け、実りの満足感や成就感を味わえる構成にし、「いつもの ばしょ」周辺で働いている方々への尊敬の念も感じられるように配慮した。(第1・4号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して人との適切なかかわり方、態度が身に付くように配慮した。(第3号) 	58～65 頁 62～65 頁
8 みんなで 行こう	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を広げ豊かにしてくれる地域や公共施設にかかわる学習を自らの力で展開していくことを大切に、そのための調べ学習の方法も大事に表した。(第2・3号) ・地域に出かけ、地域の人とかかわる中で伝わることの楽しさや心の交流ができたよろこびを味わい、相互の交流活動の中で働く人や仕事への夢・憧れを抱くことを願い構成した。(第2号) 	66～68 頁 69～73 頁
9 冬と お正月	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを中心にした「たのしい おしょうがつ」「おしょうがつの あそび」(上巻)に対し、家庭の中での家族の一員として、また、地域の一員として迎えるお正月の視点から構成した。(第3・5号) ・冬の備えや地域に伝わる行事について写真で例示しながら、身の回りのくらしについて関心をもてるように配慮した。(第1・5号) 	74～81 頁 75, 80～81 頁
10 はしれ はしれ	<ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心を刺激し、興味関心から思い思いのおもちゃづくりを試行錯誤し、そのおもちゃで遊びながら、不思議さやおもしろさを実感できるように構成した。(第2号) 	82～87 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 1 いきものと いっしょ④	・小さいときから育ててきた生き物と長期的にかかわる中で、対象に寄り添い、生活を共にし、くらしをつくってきた学びを振り返り、生命の尊さ、共に生きるよこびが感じられるように表した。(第1・4号)	88～91 頁
1 2 大きく なった わたし	・生き物の生命の誕生や作物の収穫を経験してきた子どもたちが自らの誕生を振り返り、かかわり支えてきてくれた人々についての調べ活動などを通して、家族の慈しみのうちに生きる自分を自覚できるように配慮した。(第1・4号)	92～99 頁
1 3 おもいで いっぱい 生活科	・四季を通じて通い続けた場所、動・植物や人々、栽培などのかかわりを子どもの言葉で表し、二年間の自分自身への成長に気付いていけるように配慮した。さらに3年生への意欲に満ちた表情を写真で表した。(第1号)	100～104 頁

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 地域に生まれ、地域に育つ子どもが、四季を通して人やもの、そして、その場所にかかわることを重視した内容構成

- ・多様な気付きや発見のよこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう、「いつものばしょ」や「さんぼみち」などの単元を設け、四季を通して繰り返し足を運び、直接体験をする内容構成にした。
- ・「たんごのせつく」「たなばた」「おつきみ」「お正月」「せつぶん」「ひなまつり」など季節の変化とかかわりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを感じたり調べたりする活動も大事にし、人々とかかわりながらくらしをつくっていけるように構成した。
- ・地域に育つ子どもが公民館や図書館などの公共施設にも自然に興味関心をもって単元が展開されるように関連する単元間のつながりにも配慮した。

(2) 豊かな生活のドラマをつくりだす単元の設定

- ・単元展開をリードする主人公として「さとこ」「まこと」を登場させ、その家族や友達・担任の姿も描くことにより、教科書に物語性をもたせ、単元名・小単元名ともに子どもの言葉で表すようにした。
- ・子どもが求め、展開する生活科の活動を通して、様々なドラマが生まれ、子どもの心が触発され、豊かな学びや育ちの機縁となることを大事に、活動のよこびや感動が十分味わえるような単元を示した。特に内容項目(8)に特化した単元は設けず、くらしの中で自然なかかわりとして幼保・地域・お年寄りなどとの交流を位置付けるように配慮した。

(3) 活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開

- ・活動が真に子どものものとして展開するために、活動を指示したり、単に例示したりするのではなく、吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで、「子どもの願いから立ち上がる端緒」を示したり、学びの深まりや広がりにつながる活動への触発性を大切に表したりした。
- ・活動の節々における「感動体験」、試す・確かめるなどの「探究活動」、自らの体験を見返し味わう「表現活動」を多様(詩的表現、学習カード、歌、絵、粘土等)に示し、より深い学びや活動につながるよう、友達同士の学び合いや情報交換の場も位置付けた。また、そうした学習活動を支える教師のありようが具体的にわかるように、写真やさし絵の中に「教師のかかわる姿や立ち位置」もできるだけ示した。

(4) 生活科ならではの学習の視点を明確にした内容構成

- ・学校生活の始まりが生活科学習の始まりと考え、「はじめまして せいかわか」「ことしも 生活科」を設けた。また、「家庭に始まり家庭に帰る」ことも大切な学びのコンセプトとして位置付け、家庭・地域と共に育てる生活科の実践を目指した。
- ・1年生の最初に「うれしいな いちねんせい」、2年生の最初に「二年目の 春」を位置付け、今ある自分から生活を豊かに広げていく楽しさを感じられるようにした。

(5) 動・植物との継続的なかかわりを通して、命のドラマを体験できるような場面の表し方の工夫

- ・動物や植物との継続的なかかわりを大切に、息の長い活動を位置付け、家庭・地域や専門機関との連携も大切にしなが、様々な課題を乗り越えて行く姿を表した。

- ・動物飼育にかかわっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物を提示するとともに、飼育活動のまとめとして、その生き物にかかわる様々な学習の収束や「別れ」も大事に考え、関係する活動を示すとともに感動表現も取り入れた。
- ・植物栽培にかかわっては、上巻では、アサガオを一人一鉢で育てる活動を通して、アサガオに命を感じながら、それに応じようとしていく姿を、下巻では、そうした体験に基づいて、クラスの仲間と力を合わせてダイズ栽培に取り組み、「収穫のよろこび」を味わうとともに、様々な調理体験を通して「生産のたのしさ」を実感していく姿も表した。

(6) 自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面の設定

- ・各単元での振り返りの場面を大事にし、子どもが自分や友達の生活・地域とのかかわりなどを通して自分の成長に気付くことができるようにした。
- ・下巻では、自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や周りの人々とかかわり、学校での二年間を通して、互いの成長を「みんなと すすんで やれたよ」と振り返る場面を大切にし、友達の温かなまなざしを感じながら自分の成長を実感できるようにした。

(7) 実践に基づいた子どもの姿や発せられる言葉の提示

- ・子どもが思いをこめてひたすら活動に打ち込む姿、比べたり試したりすることで得られる手応えを感じ取り、気付きの質を高めていく姿、自他とのかかわりについて思考したり、追究したり、成就感を得たりする姿などをさし絵や写真で表し、活動への触発となるように配慮した。
- ・子どもの言葉は、自らの体験の質と抜きがたい関係を持ち、個性的で温かく、核心を突いた意識や感情、主張の表れである。そこで、これらを厳選して、緊張感や臨場感のある「吹き出し」や「対話」「詩」「作文」などで示し、体験や活動の質が高まるようにした。

(8) 具体的な活動や体験と一体となった表現活動の重視

- ・活動や学びの中で生まれてくる友達同士の気付きや発見を伝え合い、より豊かな活動や学びにつながることを大事に、伝え合う活動をさし絵や写真、作文等の中に表した。
- ・子どもたちが日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、日ごろから記録に残して振り返ったり、相手に思いを伝えたりすることの意義を表すように配慮した。

(9) 各教科、総合的な学習の時間との関連や情報機器の利用

- ・入学期の子どもの発達や特徴を考慮し、遊びや具体的な活動を重視しながら、スタートカリキュラムとして総合的に展開できるようにした。
- ・聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べなどのように、他教科との関連や3年生以降の教科との関連、また情報機器（デジタルカメラやタブレットなど）の活用も含め、総合的な学習の時間との関連などにも配慮した。
- ・デジタル教科書対応としてURL・二次元コードを目次に示し、図鑑的要素を多数盛り込んだ。

(10) 個に応じた学びへの配慮

- ・家庭環境の違いや障がいのある児童、また、外国籍の児童など多様な人々と触れ合うことは日々の暮らしそのものと捉えて、そうした姿をさし絵や写真で表し、学習が個々の子どもの願いや実態に応じて選択、あるいは発展するように配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
104-222	小学校	生活	生活	第1学年, 2学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
26信教	生活125 生活126	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ		

1. 編修上, 特に意を用いた点や特色

子どもと身近な自然や社会, 人々をつなぐ, ぬくもりのある教科書

(1) 地域に生まれ, 地域に育つ子どもが, 四季を通して人やもの, そして, その場所にかかわることを重視した内容構成

- ・多様な気付きや発見のよろこびを感じ, ふるさとへの愛着が深められるよう, 「いつものばしょ」や「さんぼみち」などの単元を設け, 四季を通して繰り返し足を運び, 直接体験をする内容構成にした。
- ・「たんごのせつく」「たなばた」「おつきみ」「お正月」「せつぶん」「ひなまつり」など季節の変化とかかわりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを感じたり調べたりする活動も大事にし, 人々とかかわりながらくらしをつくっていきけるように構成した。
- ・地域に育つ子どもが, 公民館や図書館などの公共施設にも自然に興味関心をもって単元が展開されるように, 関連する単元間のつながりにも配慮した。

(2) 豊かな生活のドラマをつくりだす単元の設定

- ・単元展開をリードする主人公として「さとこ」「まこと」を登場させ, その家族やクラスメート・担任の姿も描くことにより, 教科書に物語性をもたせ, 単元名・小単元名ともに子どもの言葉で表すようにした。
- ・子どもが求め, 展開する生活科の活動を通して様々なドラマが生まれ, 子どもの心が触発され, 豊かな学びや育ちの機縁となることを大事に, 活動のよろこびや感動が十分味わえるような単元を設定した。特に内容項目(8)に特化した単元は設けず, くらしの中で自然なかかわりとして幼保・地域・お年寄りなどとの交流を位置付けるように配慮した。

(3) 活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開

- ・活動が真に子どものものとして展開するために, 活動を指示したり, 単に例示したりするのではなく, 吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで, 子どもの願いから立ち上がる端緒を示したり, 学びの深まりや広がりにつながる活動への触発性を大切に表したりした。
- ・活動の節々における「感動体験」, 試す・確かめるなどの「探究活動」, 自らの体験を見返し味わう「表現活動」を多様(詩的表現, 学習カード, 歌, 絵, 粘土等)に示し, より深い学びや活動につながるよう, 友達同士の学び合いや情報交換の場も位置付けた。また, そうした学習活動を支える教師のありようが具体的にわかるように, 写真やさし絵の中に「教師のかかわる姿や立ち位置」もできるだけ示した。

(4) 生活科ならではの学習の視点を明確にした内容構成

- ・学校生活の始まりが生活科学習の始まりと考え, 「はじめまして せいかつか」「ことしも 生活科」を設けた。また, 「家庭に始まり家庭に帰る」ことも大切な学びのコンセプトとして位置付け, 家庭・地域とともに育てる生活科の実践を目指した。
- ・1年生の最初に「うれしいな いちねんせい」, 2年生の最初に「二年目の 春」を位置付け, 今ある自分から生活を豊かに広げていく楽しさを感じられるようにした。

(5) 動・植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを体験できるような場面の表し方の工夫

- ・動物や植物との継続的なかわりを大切に、息の長い活動を位置付け、家庭・地域や専門機関との連携も大切にしながら、様々な課題を乗り越えて行く姿を表した。
- ・動物飼育にかかわっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物を提示するとともに、飼育活動のまとめとして、その生き物にかかわる様々な学習の収束や「別れ」も大事に考え、関連する活動を示すとともに感動表現も取り入れた。
- ・植物栽培にかかわっては、上巻では、アサガオを1人一鉢で育てる活動を通して、アサガオに命を感じながら、それに応じようとしていく姿を、下巻では、そうした体験に基づいて、クラスの仲間と力を合わせてダイズ栽培に取り組み、「収穫のよろこび」を味わうとともに、様々な調理体験を通して「生産のたのしさ」を実感していく姿も表した。

(6) 自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面の設定

- ・各単元での振り返りの場面を大事にし、子どもが自分や友達の生活・地域とのかかわりなどを通して自分の成長に気付くことができるようにした。
- ・下巻では、自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や周りの人々とのかかわりや学校での2年間を通して、互いの成長を「みんなとすすんでやれたよ」と振り返る場面を大切にし、友達の温かなまなざしを感じながら自分の成長を実感できるようにした。

(7) 実践に基づいた子どもの姿や発せられる言葉の提示

- ・子どもが思いをこめてひたすら活動に打ち込む姿、比べたり試したりすることで得られる手応えを感じながら、気付きの質を高めていく姿、自他とのかかわりについて思考したり、追究したり、成就感を得たりする姿などをさし絵や写真で表し、活動への触発となるように配慮した。
- ・子どもの言葉は、自分の体験の質と抜きがたい関係を持ち、個人的で温かく、核心を突いた意識や感情、主張の表れである。そこで、これらを厳選して、緊張感や臨場感のある「吹き出し」や「対話」「詩」「作文」などで示し、体験や活動の質が高まるようにした。

(8) 具体的な活動や体験と一体となった表現活動の重視

- ・活動や学びの中で生まれてくる友達同士の気付きや発見を伝え合い、より豊かな活動や学びにつながることを大事に、伝え合う活動をさし絵や写真、作文等の中に表した。
- ・子どもたちが日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、日ごろから記録に残して振り返ったり、相手に思いを伝えたりすることの意義を表すように配慮した。

(9) 各教科、総合的な学習の時間との関連や情報機器の利用

- ・入学期の子どもの発達や特徴を考慮し、遊びや具体的な活動を重視しながら、スタートカリキュラムとして総合的に展開できるようにした。
- ・聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べなどのように、他教科との関連や3年生以降の教科や総合的な学習の時間との関連、また、情報機器（デジタルカメラやタブレットなど）の活用などにも配慮した。
- ・デジタル教科書対応としてURL、二次元コードを目次に示し、図鑑的要素を多数盛り込んだ。

(10) 個に応じた学びへの配慮

- ・家庭環境の違いや障がいのある児童、また、外国籍の児童など多様な人々と触れ合うことは日々のくらしそのものと捉えて、そうした姿をさし絵や写真で表し、学習が個々の子どもの願いや実態に応じて選択、あるいは発展するように配慮した。

2. 対照表

上巻

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
(オリエンテーション) はじめまして せいかつか				表 2～1 頁	1
◎うれしいな いちねんせい ○きょうから いちねんせい ○おはようございます ○あそぼうよ ○さようなら ○きを つけて かえるよ ○がっこう たんけん ○ここは どこかな ○なかよしに なりたいな ○おはなし ききたいな ○こうていへ いこう ○はなして みよう きいて みよう	(1)	(1)		4～21 頁	8 + 国 算 音 体 図 特
		(4)		22～23 頁	
		(8)		24～25 頁	
◎はると なかよし ○いつもの ばしよ ○はるの さんぽみち ○はるの おくりもの	(2)	(5)		(8) 26～31 頁	6 + 国 算 図 特
		(6)		32～33 頁	
◎たんごの せっく	(2)	(5)		34～35 頁	4
◎わたしの あさがお ○たねを もらったよ ○めを だしてね ○あつめが だた ○おおきく なって きたね ○わあ さいた	(2)	(7)		36～43 頁	4
◎いきものと いっしょ① ○かって みたいな ○きょうから いっしょ ○よろこんで くれるかな	(2)	(7)		44～51 頁	6
◎たなばた	(2)	(5)		52～55 頁	3
◎まぶしい なつ ○わあ きもちが いい ○いつもの ばしよ ○なつの さんぽみち ○あめふり ○あめあがり ○なつやすみ ○たのしかったよ	(2)	(5)		(8) 56～63 頁	8
		(1), (6), (8)		64～67 頁	
◎ひとつぶの たねから ○きれいだな ○のこしたいな	(2)	(7)	(6)	68～73 頁	6
◎いきものと いっしょ② ○きょうも げんきかな ○やりたい こと いっぱい ○さあ おはいら ○さむく なって きたね ○いつもと ちがうね	(2)	(7)	(8)	74～79 頁	8
◎おつきみ ○おつきみ したいな ○おつきみ しよう ○きょうの つきは ○おつきみかい	(2)	(5)		80～83 頁	2

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
◎あきが いっぱい ○いつもの ばしょ ○あきの さんぽみち ○あきの おくりもの ○あきと あそぼう ○いっしょに あそぼう	(2)	(5)	(8)	84～93 頁	10
			(6), (8)	94～95 頁	
				96～97 頁	
◎わたしと かぞく ○おしえて いえの こと ○かぞくの ようす ○わたしに できる こと ○できるように なったよ ○こうして みようかな	(3)	(2)		98～101 頁	10
◎ふゆも きらきら ○いつもの ばしょ ○ふゆの さんぽみち ○ふゆも げんき ○とうじの 日 ○たのしい おしょうがつ ○おしょうがつの あそび ○はるの 七草 ○おおゆきの 日に	(2)	(5)	(8)	102～109 頁	7
			(1), (6)	110～113 頁	
◎せつぶん	(2)	(5)		114～116 頁	2
◎てづくり おもちや	(2)	(6)		117～119 頁	5
◎ひなまつり	(2)	(5)		120～121 頁	3
◎もう すぐ 二ねんせい ○だいじな おもいで ○こんな ことが あったよ ○ありがとう 一ねんかん	(3)	(9)	(8)	122～128 頁	9
				1年 総授業時数	102

下巻

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
(オリエンテーション) ことしも 生活科				表 2～1 頁	1
◎二年目の 春 ○新しい 教室 ○ことしの ねがい ○いつもの ばしょへ ○あそこに 行けば ○春の あじ ○たんぼぼの ふしぎ	(1), (2), (3)	(5)		4～7 頁	8
			(1), (6)	8～13 頁	
◎わたしたちが すむ 町 ○みつけた ○おみせやさん ○こうみんかん ○ふるい たてもの ○ちいきの かたりべ ○つたえたいね とどけたいね ○人に やさしい 町 ○みつけて みよう	(1), (2)	(3)	(4), (8)	14～27 頁	12
◎いきものと いっしょ③ ○おかあさんに なったんだね ○きょうも あいたいよ	(2)	(7)	(8)	28～31 頁	4

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
◎いっぱい みのって ○だいを そだてたいな ○たくさん とれるかな ○はたけを かして ください ○はたけづくり ○まめは 生きて いる ○たねまき ○あつ めが 出る ○あれっ ○大きく なった だいを ○だいの おせわ ○かわいい 花だね ○まめの 赤ちゃん	(2)	(7)	(8)	32～45 頁	12
◎かがやく 夏 ○いきものの いる 川 ○耳を すませば	(2)	(5)	(7), (8) (3)	46～49 頁 50～51 頁	4
◎すすめ すいすい号 ○ういた ういた ○ふねを つくりたいな ○どんな ふねに しようかな ○さあ のろう	(2)	(6)	(8)	52～57 頁	8
◎いっぱい みのったね ○だいの しゅうかく ○何が つくれそうかな ○生まれかわる だいを ○しゅうかくいわい ○ありがとう	(2)	(7)	/	58～63 頁	10
			(8)	64～65 頁	
◎みんなで 行こう ○どうやったら 行けるかな ○しゅっぱつだ	(1)	(4)	(3)	66～73 頁	16
◎冬と お正月 ○冬じたく ○年の くれ ○お年とりの じゅんぴ ○元日の 朝 ○かきぞめ ○まゆ玉づくり ○小正月	(2)	(5)	(2) (3)	74～77 頁 78～81 頁	8
◎はしれ はしれ ○なんども ためして いろいろ くふう	(2)	(6)	/	82～87 頁	6
◎いきものと いっしょ④ ○いつも いっしょだったね	(2), (3)	(7)	/	88～91 頁	4
◎大きく なった わたし ○わたしの たんじょう ○小さい ころの わたし ○大きく なって きた わたし ○ありがとう	(3)	(9)	(8)	92～99 頁	8
◎おもいで いっぱい 生活科 ○みんなと すすんで やれたよ ○楽しみだね 三年生	(3)	(9)	(8)	100～104 頁	4
				2年 総授業時数	105